



『ぶんごわ～るど』は、大分県在住の青年海外協力隊経験者組織である大分県青年海外協力協会の会報です。この会報では、主に、協会の活動やOBOG隊員の帰国後の活動の様子、現在海外へ派遣されている隊員からの活動報告を掲載しています。かつて豊後(Bungo)の国と呼ばれていた大分県から世界(World)へ雄飛した若者達の活躍ぶりを是非ご一読ください。

## コロナ・イズ・オーバー！次の時代へ

様々な社会活動に影響を及ぼしていた新型コロナウイルス感染症も、2023年5月8日に、その位置づけが「5類感染症」になり、ポスト・コロナの時代に入りました。JICA海外協力隊も一時はすべての国から帰国・派遣中止になりましたが、現在はかなり回復し、2024年8月末現在、大分県からは10名の隊員が9か国に派遣され、現地で活躍中です。また、5月にはコロナ後派遣された最初の隊員の久寿米木さんが任期を終えて帰国されました。今後もコロナ後派遣された隊員が帰国する予定です。しばらく空白になっていた新しい帰国隊員が当会の新メンバーとして新しい力を加えてくれるものと期待しています。

また、当会のホームページが新しくなりました。当会のホームページは長らく停止状態なっていましたが、このたび新しいホームページを作成しました。



新帰国隊員を交えての壮行会・帰国隊員歓迎会

URLは<https://oita-joca.org/>です。ブラウザにoocaと入力して検索するか、QRコードから入ることも出来ます。また、これに合わせて当会のロゴも作成しました。今回作成したロゴはタイトルの横に、QRコードは巻末に記載しています。

## ベリーズ少年院日記

2023年度1次隊 ベリーズ 青少年活動 高岡 志津代

こんにちは。私は海外協力隊として2023年7月末から中米のベリーズという国に来て、いわゆる少年院で活動しています。

まず、「ベリーズ」という国ですが、中央アメリカのユカタン半島の南にあります。北はメキシコ、南西はグアテマラと接し、東はカリブ海に面してい

ます。日本の国土でいうと四国くらいの大きさで、人口も40万人余り。多民族国家で、アフリカやメキシコ、マヤなど様々なルーツを持つ人々が暮らしていますが、民族間の争いはなく、おだやかでのんびりとした雰囲気があふれる国です。

小さな国そのため、友人の知人は友人など、人と人



職場の前で

が降りるバス停を間違えないよう合図してくれたりと、ベリーズの方々にとても良くしてもらっています。私が外国人であるということはあまり関係なく、困った人がいればお互いに助け合うというのが昔ながらのベリーズ人の在り方だと活動先の上司から聞きました。

さて、私の活動先であるNew Beginnings Youth Development Centerは、おおむね12歳から18歳未満の男女が生活する少年院です。日本では、男

女の少年院がそれぞれ異なる敷地にあるのですが、ベリーズの少年院は男子寮、女子寮が同じ敷地内にあります。

ベリーズの少年院に

は、罪を犯して入所する少年だけではなく、児童養護の観点から入所する少年、違法入国の件で入所する少年もいます。入所の理由は様々です。そうした

との結び付きがとても強いように感じます。私は毎日、バスで片道40分程度の通勤をしていますが、通勤中のバスでは、たまたま隣に座った乗客の方と話に花が咲いたり、顔見知りとなった学校の先生から作り立ての朝ごはんをもらったり、バスの運転手さんが、私

入所者のニーズに合わせて、学校の授業や運動、各プログラムが実施されています。

私はこれまで心理教育、コグトレ（認知トレーニング）、アートと3つのクラスを担当しました。日本で臨床心理士、公認心理師として、精神科病院や刑務所、少年鑑別所に勤務した経験を生かして、現場のニーズに合うように試行錯誤しながらグループワークをやっています。

ベリーズの公用語は英語ですが、現地のクレオール語やスペイン語を話す少年もいるので、お互いに言いたいことは何かを摸索しながらのコミュニケーションです。

グループワークを通して怒りの対処方法やストレス軽減方法、適切な感情表現の仕方など身に付け、社会復帰を果たしてほしいと願いながら活動しています。

嬉しいことは、私という人間をとおして日本、そして世界をもっと知りたいと思ってくれる少年が増えたことです。少年院に来ることになった少年を取り巻く環境は様々ですが、彼らの未来には色々な可能性や道があることを、一人の外国人ボランティアを通じて感じてもらえることが何よりの喜びです。

※少年院という場所柄、活動中の写真は載せられないとのことです。



cafeteria



施設での昼食

## 限られた資源の中での医療活動

2023年度1次隊 ソロモン 看護師 水上 友美

2023年7月より、大洋州のソロモン諸島で看護師として活動している水上友美と申します。今回はソロモン諸島と私の活動についてご紹介させていただきます。ソロモン諸島は、岩手県の約2倍の大きな国土面積を有しており、6つの大きな島と1000

ほどの火山島・珊瑚島から構成されている国です。公用語は英語で、共通語はピジン語という英語を簡略化した言語を使用しています。同じ国でも出身地の州によって使用するピジン語が異なっており、結婚するさいには、祝いの品として通貨の代わりに、



シェルマネー

貝殻で作られたシェルマネー（貝貨）や、家畜の豚を送る習慣があるなど、大変興味深い国です。

そして、私の暮らしているガダルカナル島は、かつて第二次大戦時には「ガ島＝餓島」と呼ばれ、日本軍の将兵2万人あまりの方が、病気と餓えで命を落とした激戦地として知られる場所です。戦後80年が経過した今でも、戦争の爪痕を感じさせられることから、ソロモン諸島は日本との歴史的関係がと



ビル村博物館

ても深い国でもあります。

私の主な活動は、診療所での業務、救急車の運営のサポート、Non-communicable diseases (NCDs) 対策に対するワークショップの実施を行っています。ソロモンはマラリア蔓延国です。診療所で診察する重症な患者さんのほとんどがマラリアに罹患しています。しかし、治療に必要な検査キットや薬などの医療資材がないなどは日常茶飯事です。さらに、診療所も断水や停電が頻繁に起こります。加えて、一般的にソロモンの医療者に対する給料は低いと言われています。給与の低さから、医療職の仕事に対する満足度は低く、職場に医師や看護師が出勤してこない。出勤してきても、勤務時間内なのにいつの間にか帰ってしまうことは日常的であり、日本の医療の質の高さを痛感しました。



コミュニティ診療



マラリアチームと地域巡回

私はフライトナースとして勤務経験があったことから、中国がソロモンに寄贈した救急車の運用に携わることになりました。現地の医者と相談しながら、ソロモンで救急サービスを行っている会社に視察に行き、診療所と国立病院間の患者搬送をする搬送車として運用を開始しました。救急車担当看護師には記録を書いてもらい、データーの集計や内容から再発予防策が必要な事例に対しては、クリニックに行き症例検討会を実施しました。また、BLS (Basic Life Support: 一次救命処置) のトレーニングをクリニックや学校の教員に対しても、実施しました。

ソロモン諸島に暮らす人々の死因の主な原因是、NCDs であり、そのうちの40%は心疾患が原因で死亡していると考えられています。そのため、WHOの方と協力して、NCDs 対策を取り組んでいます。主な内容としては、メディカルスタッフに対して、アセスメント能力の向上を目標にワークショップを行いました。最初は私たちがワークショップのファシリテーターを行っていましたが、トレーニングを積み重ねることで、今ではソロモンの看護師の方が、ファシリテーターの役割が担うことができ、参加したスタッフに対しても、コーチングができるようになりました。



HCC救急チーム

ソロモンに赴任して、1年が経過しました。ソロモンにはソロモンタイムがあるため、なかなか計画通りには、やりたいことが進みません。そのため、ストレスを感じるところもあります。しかし、ソロモンの子供たちは、目がキラキラし、とてもかわいいです。子供たちの笑顔を守るためにも、残り1年間ソロモン生活を楽しみながら、活動を行っていきたいと思います。

# ガーナからの活動報告

2023年度2次隊

ガーナ共和国 冷凍機器・空調

佐藤 智隆

はじめまして。2023年10月からガーナ共和国に派遣中の佐藤智隆（さとうともたか）と申します。

皆さんはガーナと聞いて何を思い浮かべますか？赤いパッケージに入った甘くて誰もが一度は口にしたことのある…そう、チョコレートです！日本ではCMや広告でよく見かけるガーナチョコレートですが、ガーナでは価格が日本の2倍するため、ガーナ人はほとんどチョコレートを食べないようで、お店で見かけることは少ないです。気になるお味は、カカオの素材を大切にした、とても素朴な味です。油分が少ないので、口の中に入れてもなかなか溶けないのが面白い特徴です。チョコレートが大好きな私もお勧めしたい、本場ガーナのガーナチョコレートです。



本場ガーナのチョコレート(左)とガーナチョコレート(右)

私は首都アクラから西に160km離れたケープコートにいます。大分市から福岡市くらいの距離です。そこでケープコートテクニカルインスティチュート（工業高校と商業高校を合わせたイメージ）という学校で生徒たちに冷凍技術を教えています。全校生徒は2000人と多いのに、机と椅子の数はその半分程度…そのため、2人で一つの机と椅子を使うことが当たり前になっています。しかし、そのような環境から生まれる、男女問わず仲良くくっついて座って授業を受ける光景はとても微笑ましく思えます。そんな生徒の出席率は曜日や天気に左右されます。例えば、月曜の晴れた日は80%



小学校で日本文化の紹介

を超えますが、普段から出席率の低い金曜に雨が降ると20%以下にまで激減します。家庭の都合だったり、単にサボっていたりと理由は様々あるようです。

ここで、私のちょっとした失敗談をお話しします。先日、3年生の最終試験に向けて小テストを行いました。過去問から出題傾向を掴み、最終試験で出題されそうな問題を夢中になって作りました。その自信作を意気揚々と生徒に配り始めましたが…この日は月曜の晴れた日…そうです、出席率が高い日だったのです。机と椅子が足りないのです。いつも通り仲良く二人で座る生徒たち…もちろん生徒たちは答えを教え合いながら問題を解いていました。いわゆるカンニングです。それも堂々と…。テスト問題を作るという目の前のことだけに夢中になった結果の失敗です。この失敗から、全体の流れをシミュレーションしながら仕事をする必要性を再認識させられました。今回の場合、以降の小テストを2種類作ることで対策しました。



小テストの風景

日本では想像つかないことがたくさんあり、失敗ばかりですが、どこかでそれを楽しんでいる自分もいます。短い活動期間ですが、日々の失敗からも学び、工夫し、より自身の引き出しを多くできる2年間にしたいと思います。



休日のハンドボールの練習への参加

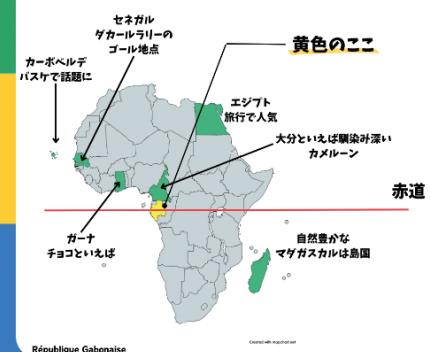
# アフリカ、ガボンからの活動報告

2023年度1次隊 コミュニティ開発 穴井 祐介

Bonjour, tout le monde! (フランス語でみなさん、こんにちは!)

2023年度1次隊でガボンに派遣されている穴井です。私は日田市で生まれ、大分市内の中学校と高校を卒業しました。紙パルプのメーカー勤務や、コンサルタント業を経て、10年来の目標であったJICA海外協力隊に参加しています。

## 1.どこにあるの？



アフリカ54か国の中でも、ガボンは小さな国といえるでしょう。

## 2.どんなところ？



国土の85%が熱帯雨林  
アマゾンに次ぐ世界2位の面積



ソウやゴリラといった  
野生動物も多く生息



きれいなビーチもあり、  
観光地としても  
注目されている。

République Gabonaise

みなさんは、アフリカのガボンという国をご存じでしょうか？赤道直下の中央アフリカに位置する自然豊かな国家です（図1）。人口は約240万人のため、人口増加が著しい

面積26.7万km<sup>2</sup>（日本は約37.8万km<sup>2</sup>）のうち、85%は熱帯雨林が広がっており、ブラジルのアマゾンに次ぐ広大さで、地球の肺と呼ばれることもあります。アフリカ諸国の中

では珍しく、石油や鉱物資源の豊かな国である一方、石油依存の経済を脱却するために、他の産業の開発に注力をしています。特に、豊かな生物資源を活かしたエコツーリズムが注目されており、ヨーロッパ諸国からの観光客もしばしば見受けられます（図2）。

本原稿を執筆している7月は乾季にあたり、25度前後の気温が続き、とても過ごしやすいのですが、1年の大半は雨季になり、じめじめと蒸し暑く、日が射していると思ったら、突然大雨が降ることもあります。

現在住んでいる、首都リーブルビルの発展は目覚

ましく、日常的な生活には困ることがほとんどありません。スーパーに行けばコカ・コーラが買え、ハンバーガーなどのファストフードも食べることができます。伝統的な食べ物といえば、キャッサバが挙げられますが、米やパン、パスタが手軽に手に入るため、普段の食事は洋風です。

私の活動場

所は、漁業・海洋経済省の零細漁業センターです。日本のODAで建設された魚市場のような施設で、事務スタッフ・漁師・魚の小売販売者・資材運搬者・レストラン

など、100名以上の方が働いており、とても活気があります。この中で、衛生環境の向上を目標に、市場に落ちているごみ拾いや、環境保護のためのチラシ・ポスター制作といった啓蒙活動、そして収益の向上を目標に、ハーブ栽培の推進などの副業の開発を行っています（図3）。

ガボンは、昨年8月の大統領選挙の際に、軍事クーデターが起きたため、安全が確認できるまでの数か月間、派遣までの待機期間がありました。しかしながら、運よく国内情勢が落ち着いたため、11月に赴任して、ボランティア活動をすることができます。応援してくれる家族や友人に感謝しながら、与えられたチャンスを最大限活かして、微力ながらも国際協力に貢献したいと考えています。

## 3.どんな活動場所？



活気のある魚市場にいます



塩漬け後に、天日干し  
高級品です



そこら中に、当たり前のように  
ごみが捨てられています

République Gabonaise



活動計画を発表している様子

# 南米のおへそから活動報告

2023年度3次隊 パラグアイ 理学療法士 梅木 伽那

¡Hola (オラ)! Mba' éichapa! (バエシャパ)!  
2023年度3次隊としてパラグアイのカアクペ市に派遣されている理学療法士の梅木伽那です。



アサド（パラグアイ式BBQ）

パラグアイは、南米大陸の真ん中（おへそ）に位置しており、ブラジル、アルゼンチン、ボリビアに囲まれた内陸国で、時差は現在13時間（ただし夏時間では12時間）です。南半球にあるので、気候は日本と真逆で、夏は40°Cとなり、冬は0°C近くまで気温が下がります。食事は、アサドというパラグアイ式のBBQや、エンパナーダなど小麦やとうもろこしを使った料理が多く、どれもとても美味しいです。最初に記載した ¡Hola! はスペイン語、Mba' éichapa はグアラニー語の挨拶です。公用語はスペイン語とグアラニー語の2つあり、会話は2つが混ざって話されるので「ジョパラ」と言われています。



私の活動地

私の活動地は、カアクペ市という首都のアスンシオンからバスで2時間ほど離れた場所です。パラグアイの大聖堂があることで有名です。頂上には展望台があり、山に囲まれた長閑な風景が一望できます。毎年12月8日には、「カアクペ巡礼」というキリスト教の祭りがあり、パラグアイ中からこの大聖堂へ巡礼をしに訪れるそうです。

私の活動について紹介します。SENADIS（国家障害者人権庁）という障害者の社会的包摶・経済的自立に向けた取り組みを行う国家機関のカアクペ支



カアクペ市の風景

部で活動しています。無償でリハビリテーションを提供している施設は少ないので、市内だけでなく近隣の市からも患者は訪れます。私の活動内容は、患者へ理学療法を実施すること、家族へ日常生活の指導や現地の理学療法士に技術伝達を行うことです。ダウン症や脳性麻痺などの小児患者や、脳卒中や交通事故により身体麻痺になった患者、交通事故や糖尿病で下肢の切断になってしまった患者が多いです。こちらでは家族や親戚が患者を助け合うとても素敵な文化があります。しかし患者自身でできることも手伝ってしまい、患者が自立できていない状況もあるので、文化の違いを感じています。今後は、患者が日常生活の自立や社会復帰ができるような活動を行っていきたいと思っています。その他の活動では、知的障害者のオリンピックのお手伝いをしたり、保健医療部会の活動として、健康チェックに来られた方に対して簡単な体操指導を行なったりしています。現在パラグアイに来て5ヶ月程度です。最近は Nanduti（ニャンドゥティ）というパラグアイの刺繡も始めました。パラグアイの文化や生活を楽しみながら、2年間で少しでもプラスになるような活動をしていきたいと思います。



健康体操の指導

# 任地ベトナム・ギアローの紹介と活動について

2023年度3次隊 ベトナム コミュニティ開発 鈴木 穂乃花

シンチャオ！こんにちは！2024年2月よりベトナムに派遣されている鈴木穂乃花と申します。私はコミュニティ開発の職種で、任地の観光開発に携わっています。以前「ぶんごわ～るど第71号」でイベントの感想を書いた際はまだ協力隊に合格していなかったので、こうして隊員として寄稿できることを嬉しく思います。応募の際に協力隊ナビ等で相談に乗ってくださった大分県青年海外協力協会の皆さん、本当にありがとうございました！

さて、ここからは私の任地ギアロー市（ベトナム語表記：Thị Xã Nghĩa Lộ）について紹介します。ギアローはベトナム北西部、首都ハノイから約200kmの場所にあり、面積約107km<sup>2</sup>の中に約70,000人、21もの民族が暮らしています。少数民族タイ族が人口の約52%を占めており、毎年9月末頃にはタイ族の民族舞踊で、ユネスコの無形文化遺産に登録されている「ソエタイ」を踊る大きなお祭りが開催されます。



ムオンロー文化観光祭りでのソエタイの様子

中心部にあるムオンロー市場には様々な少数民族の人々があり、物を売買する様子をみることができます。ここでは食用の犬肉やカエル、昆虫なども売つ

ており、私も初めての時は驚きの連続でした。

ご飯は美味しく、日本人の口に合うと感じます。特に、特産品の5色おこわや水牛ジャーキーは絶品です。現地の方たちが集まってご飯を食べるときはビール、もしくはアルコール度数が42度ほどあるお米から作ったお酒を飲みます。



5色おこわと水牛ジャーキー

他には翡翠寺やホーチミンの家、戦勝記念碑、茶畠等もあります。また、ムオンロー盆地に広がる広大な田んぼでは、5色おこわの材料となるもち米が作られています。



美しい田園風景

ギアローは先述のとおり年1回大きなお祭りがあり、その時期は多くの観光客が来るものの観光地としてはまだまだ知名度が低く、住民が通年で観光業に従事し安定した収入を得ることは難しいのが現状です。活動では、美しい棚田で有名なムーカンチャイや、お茶で有名なスオイザン等、首都からギアロー近隣観光地への経路途中であるという立地を活かして観光客を呼び込み、留まってもらう仕組み作りが求められています。これから、観光客向けサービス向上を図るために、少数民族のホームステイでのアドバイスや、お土産品の開発、広報活動、日本人向けツアーの企画などをを行う予定です。

最後に、ここまで読んでくださりありがとうございました。この投稿を読んでもらうことで、多くの方にギアローを知っていただき、行きたい！と思っていただけたら嬉しいです！



少数民族タイ族の衣装と座布団

# 2023年後半以降の行事報告

## (1) 壮行会・帰国隊員歓迎会



2023年度1次  
隊壮行会（令和5年7月7日（金））、  
2023年度2次隊  
壮行会（令和5年10月13日（金））、  
2023年度1次隊  
派遣延期隊員壮行

会（令和5年11月15日（水））、2023年度3次隊壮行会（令和6年1月12日（金））、2024年度1次隊



壮行会・帰国隊員  
歓迎会（令和6年7月29日（月））を行いました。OB・  
OGは出発隊員に  
経験に基づくアド  
バイスを授けると  
ともに、自分たち

の隊員時代へも思いを巡らせたりと、皆で和気藹々とした楽しい時間を過ごすことが出来ました。

## (2) ワールドフェスタ

大分市とJICA九州は、10月6日の「国際協力の日」にちなみ、10月の1か月間を「おおいた国際協力啓発月間」と定めています。そのメインイベントとして、毎年、「おおいたワールドフェスタ」が開催されており、今回は令和5年11月5日（日）に大分市のお部屋ラボ祝祭の広場で開催されました。当会からもこのワールドフェスタに出店し



て、スリランカ風パンケーキとハーブティの販売を行いました。前年度に引き続いだ販売したスリランカパンケーキは売れ行き好調で、材料がなくなり販売終了となりました。いっぽう、ハーブティの売れ行きは今ひとつ。ホットで販売したので、当日、非常に気温が高くなつたのが敗因と思われました。



## (3) 国際交流バドミントン大会・調理食事会



令和6年1月29日（日）大分市コンパルホールで国際交流バドミントン大会・調理食事会を行いました。昨年度までは主に

インドネシア人技能実習生との交流会だったので、今回は大分市役所の方がALTとして働く外国人等も誘ってくださいだったので、大変国際色豊かな大会になりました。想定よりかなり多くの参加者があ



バドミントンでいい汗をかいた後は、調理実習室に移動して皆でインドネシア料理を作りました。Soto Ayam（ビーフン入り鶏スープ）やBalada（厚揚げと卵のいため煮）など盛りだくさんの料理を皆で協力して作りました。調味料のSambalを石臼で唐辛子をすりつぶすとこ

り、試合進行がやや混乱しましたが、そんなことに関わらず、参加したさんは楽しんでいってくれたものと思います。



ろから始めるなど、本格的なインドネシア料理ができあがり、みんなでおいしくいただきました。



#### (4) アフリカ料理調理・食事会



令和6年3月3日(日)日出町健康福祉センターでアフリカ料理調理・食事を開催しました。東アフリカ代表としてタンザニア料理(ピラウ、ウガリ、チャパティ)、西アフリカ代表としてガーナ料理(ジョロフライス、ライトスープ)を作りました。



した。特にガーナ料理のジョロフライスは調理の工程がたいへん手が込んでいて、作るのが大変でしたが皆で協力して作りました。子どもたちも乾燥エビを粉にしたりチャパティを伸ばしたりして頑張りました。

#### (5) 夏休みBBQ大会

令和6年8月18日(日)には恒例になりつつある、夏休みBBQ大会が日出町糸が浜海浜公園で開催され、多くのOB・OGが家



族連れで参加して夏のひと時を楽しみました。今年は当会で準備したスパイスチキン、バジルチキン、スペアリブBBQソース、タイ風焼き鳥と言った料理の他、参加会員からソムタム(青パパイヤのサラダ)、フンムス(中東の豆ペースト)、ドイツ風ポテ

トサラダ、ラオスの筍スープ等の差し入れがあり、更に国際色豊かなBBQとなりました。また、11月のワールドフェスタに出す予定のサティアヤム(インドネシア焼き鳥)の試作品を作りました。



子どもたちは、海で小ガニを捕ったり、ハンモックに乗ったり、砂鉄を集めたりして楽しみました。捕まえられた小ガニはソムタムの材料になりました。

## 行事報告

2024年

3月	アフリカ料理 調理・食事会(9日)	日出町健康福祉センター
4月	協力隊ナビ(12日)	大分市iichiko総合文化センター1階
5月	協力隊ナビ(19日)	大分市大分県立看護科学大学
6月	2023年度大分県青年海外協力協会 総会および懇親会(26日)	ホルトホール・紙ふうせん
7月	協力隊ナビ(14日)	大分市iichiko総合文化センター1階
8月	2024年度一次隊壮行会(29日)	大分市紙ふうせん中央町店
9月	協力隊ナビ(9日)	大分市iichiko総合文化センター1階
	野外BBQ大会(25日)	日出町糸が浜海浜公園
	協力隊ナビ(9日)	大分市iichiko総合文化センター1階

※協力隊ナビとは?

ICA海外協力隊員OBOGによる個別相談会です。これまで大分市iichiko総合文化センター1階で開催してきましたが、昨年度からはそれ以外の場所での開催も行っています。協力隊事業に興味をお持ちの方は是非お立ち寄り下さい。また、OB・OGの方におかれましては懐かしいメンバーや未来の協力隊員達に会えるかも知れません。

『海外協力隊』のノボリが目印です!

## 今後の行事予定

2024年

10月	会報「ぶんごわーるど」発行	未定
11月	協力隊ナビ(未定)	
	おおいたワールドフェスタ2024ブース出店(2日)	大分市お部屋ラボ 祝祭の広場
	2023年度二次隊壮行会(未定)	未定
2025年		
2月	交際交流行事(未定)	未定

## 派遣隊員

### 2023年度2次隊

- 佐藤 智隆 ガーナ 冷凍機器・空調（大分市）  
宮脇 好和 ラオス 学芸員（九重町）

### 2023年度3次隊

- 鈴木 穂乃花 ベトナム コミュニティ開発（大分市）  
梅木 伽那 パラグアイ 理学療法士（別府市）

### 2024年度1次隊

- 龜石 香奈子 ラオス 看護師（大分市）



2023年度2次隊出発隊員のお二人。  
中央は県企画振興部長



2023年度3次隊  
出発隊員のお二人



2024年度1次隊  
出発隊員の龜石さんと  
帰国隊員の久寿米木さん

## 帰国隊員

### 2019年度3次隊（2022年5月再派遣）

- 久寿米木 咲季 ジブチ 青少年活動（杵築市）

## JICA海外協力隊とは？

JICAボランティア事業は日本政府のODA予算により、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業です。開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣します。

その主な目的は、以下の3つです。

- (1) 開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与
- (2) 異文化社会における相互理解の深化と共生
- (3) ボランティア経験の社会還元

JICA海外協力隊は事業発足から2025年で60周年を迎えます。これまでに約5万人を超える方が参加しています。

応募できるのは20～69歳の方で、日本国籍を持つ方です。募集期間は年2回（春・秋）、活動分野は農林水産、保健衛生、教育文化、スポーツ、計画・行政など多岐にわたります。自分の持っている知識、技術、経験などを生かせるのがJICA海外協力隊の特徴です。派遣期間は原則2年間ですが、1ヶ月から参加できる短期派遣制度もあります。

詳しくは大分県青年海外協力協会または国際協力機構九州国際センター（Tel093-671-6311）、大分県企画振興部国際交流室（Tel097-506-2129）またはJICAデスク大分国際協力推進員（Tel097-533-4021）へお問い合わせください。当会でも定期的に協力隊ナビを実施して、OB・OGの体験を通じての派遣に関する悩み等の相談を行っています。

大分県青年海外協力協会 会報

### 『ぶんごわ～るど』

令和6年10月発行 第72号

発行：大分県青年海外協力協会

URL:<https://oita-joca.org/>



- ★皆さまのご意見・ご感想、お便りをお待ちしています。  
★会報では、『OB/OGは今?』のインタビューを受けて下さる方を募集しています。自薦他薦問いません。  
～いずれも問い合わせは上記URLまで～

## 編集後記

### 最後の言い訳.....

「最後の言い訳」というのは徳永英明の歌です。僕が隊員時代、もう帰国間近の頃のフィリピンでは、Ted Itoという歌手がこの曲をカバーしたIkaw parinという歌が大ヒットしました。サビの「いちばん大事なことが.....」のところの日本語で、すごく懐かしく感じられました。

それはいいとして僕の最後の言い訳は、「ぶんごわ～るど」の原稿等を書くのにOVという言葉よりOB・OGという言葉を使ってきたことについてです。僕がOB・OGという言葉を好んで使う理由は、単にこれらの言葉が好きだからです。本来、年少者を指すBoy、Girlという言葉に撞着語法的にOldという言葉を付けると、年を取って、身体は衰えてしまったけど、心はあのときのままだよね、って言つてるような感じがします。もともと年少者という意味合いがないVolunteerにOldを付けても、尾畠さんのような年長のボランティアという感じしかしません。まあ、その辺の感じ方は人それぞれなのかも知れませんが....。かくゆう僕も来年の今頃は、2度目の隊員として、異国の空の元、残った人生を燃やす予定です。少年の心も忘れないで行こっと!!

63年度2次隊 長岡 健朗（フィリピン 獣医師）